

障害のある人もない人も共に生きる社会へ

みんなでつくる

共生社会

毎年12月3日～9日は障害者週間です。

～共に生き、共に考える、明日を～

全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現するためには、障害及び障害のある人に対する国民の理解と関心を広く深める必要があります。

政府では、毎年12月3日～9日を「障害者週間」と定め、障害のある人の自立と社会参加の支援等に関する活動をはじめ、様々な取組・行事を行うこととしています。

□ 内閣府における障害者週間関連行事について

1

「障害者週間」作品展

令和3年12月3日(金)～9日(木) 10:00～18:00

会場 クイーンズスクエア横浜

2

「障害者週間」ワークショップ

令和3年12月4日(土) 10:00～16:00

5日(日) 10:00～15:00

会場 クイーンズスクエア横浜(作品展と同会場)

3

「障害者週間」オンラインセミナー

令和3年12月3日(金)～28日(火)

配信場所 内閣府ホームページ



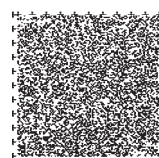
国、地方公共団体等における障害者週間関連行事について

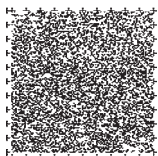
毎年、障害者週間の期間を中心に、国及び地方公共団体等が、障害者週間の趣旨に沿った障害のある人の自立と社会参加の支援等のための様々な取組を実施します。

詳しくは、内閣府ホームページに掲載しています。是非、お近くのイベント・行事等にご参加ください。

内閣府ホームページ：

▶ <https://www8.cao.go.jp/shougai/kou-kei/index-kk.html>





1 「障害者週間」作品展

入場無料

全国から募集した「障害者週間のポスター」の全推薦作品の原画(86点)及び「心の輪を広げる体験作文」の最優秀賞作品(4点)を展示します。

日時 令和3年12月3日(金)～9日(木) 10:00～18:00 会場 クイーンズスクエア横浜 主催 内閣府

令和3年度「障害者週間のポスター」最優秀賞作品

【小学生区分】



「共に輝く」

わだ みゆ

和田 実結

徳島県 徳島市新町小学校(3年)

【中学生区分】



「スマイル！」

かみさわ あやせ

上澤 彩世

横浜市 横浜国立大学教育学部附属特別支援学校中学部(1年)

令和3年度「心の輪を広げる体験作文」最優秀賞作品

心の輪を広げる体験作文 審査講評 令和3年度「心の輪を広げる体験作文」審査委員会委員長 三田 誠広

【小学生区分】

「えがおをつなぐ手話」

くぼ

久保 なのは

福岡県 大牟田市立手鎌小学校(2年)

小学校の二年生が手話に興味をもって、手話の会に参加し、努力の末に手話を習得するまでの過程を綴った作品だ。七歳の健常者が手話というものに興味をもつその出発点の姿勢をまず讃えたい。習得の具体的なようすも丹念に書かれ、何よりも言葉が通じる喜びを語っているところに感動を覚えた。

【中学生区分】

「子ども食堂は社会への窓口」

せつ ちみん

薛 知明

名古屋市 名古屋市立若葉中学校(2年)

家族の全員が発達障害を抱えているという困難な状況の中で、料理の出来ない母と子が、各地の子ども食堂によって救われる過程が描かれている。子ども食堂と出会う前は、孤食で、食べるものは食パンだけという状態だった。子ども食堂のスタッフとの心の温まる交流で、母の気持ちが開かれていき、子にとっても未来が広がっていく。まさに心の輪の大事さがここに示されている。

【高校生区分】

「チャレンジド」

くぼ てんしん

久保 天清

鹿児島県 鹿児島県立鹿児島工業高等学校(2年)

生まれつき両手の肘から先がないという書き手が、それを障害ととらえずに、努力によってさまざまな可能性を追求していく話で、とくに字を書いたり、テニスのサーブをするようすがリアルに描かれ、読む者の胸を熱くする見事な作品になっている。

【二般区分】

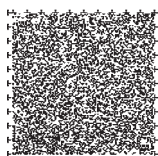
「私の想い」

さかえ

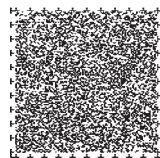
榮 ひより

大阪市

健常者の作者が、近所に住む障害のある児童との交流を描いたものだ。小学校に入って特別扱いという一種の差別を受けていたその児童が、見識のある校長の赴任によって差別を撤廃され、いきいきと成長していくさまが描かれている。このような見識をもった教育者によって「心の輪」が広がっていく可能性が示された意義のある作品となっている。



2 「障害者週間」ワークショップ



体験をテーマに、障害の特性を知っていただくための疑似体験、障害者のための器具やバリアフリーに配慮された商品の実演や使用体験などのワークショップを開催します。

■ワークショップに関するお問い合わせは各主催団体まで直接ご連絡ください。

※今後の新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、中止させていただく場合がございます。

中止の場合は、内閣府ホームページ(<https://www8.cao.go.jp/shougai/kou-kei/r03shukan/main.html#workshop>)にてお知らせします。

日時 令和3年12月4日(土) 10:00~16:00 5日(日) 10:00~15:00

会場 クイーンズスクエア横浜 主催 各団体

参加無料

1 神奈川ボッチャ協会

● <https://kanagawa-boccia.jimdoofree.com/>

4日(土) TEL : 080-5523-7468 FAX : 045-584-8687 e-mail : BocciaKanagawa@outlook.jp

「共生社会につなげる 誰にでもできるボッチャ体験」

10:00
16:00 東京2020オリパラでボッチャがテレビに放映され、関心が高まっている。障害のあるなしを問わず、誰とでも一緒に楽しめるスポーツとして、これからの共生社会につなげるスポーツとして注目。一度体験すれば、人に教えることができるほど安全で簡単なルール。楽しくて笑顔が生まれる。やってみよう! ボッチャ。

2 公益財団法人 日本盲導犬協会

● <https://www.moudouken.net>

4日(土) TEL : 045-590-1595 FAX : 045-590-1599 e-mail : Info@moudouken.net

「盲導犬ユーザーの生活について知ろう!」

12:00
16:00 ブース内で視覚障害者の疑似体験を実施します。ちょっとした工夫があれば、視覚に障害があっても盲導犬のお世話ができる、という一例を体験してみましょう。また、盲導犬と盲導犬ユーザーについての動画を観て答えるクイズも用意しています。盲導犬の基礎知識を楽しみながら学んでみませんか?

3 新宿区手をつなぐ親の会 キャラバン隊Winds

● <https://shinjuku-oyanokai.com/>

5日(日) TEL : 090-3876-6723 FAX : 03-3351-8051 e-mail : oyaoyaganbare@yahoo.co.jp

「やってみよう!! 知的・発達障害疑似体験」

10:00
15:00 簡単にできる疑似体験をご用意しています!!
目からうろこの「シングルフォーカス体験」、感覚過敏(「聴覚過敏」「視覚過敏」「臭覚過敏」等々)だと街の景色はどう見えるの? 「学習障害」って何に困っているのかな? 「お買い物体験」をして手先が不自由ってこういうことなんだあを感じてみませんか? 他、「情報格差体験」などがあります。



「障害者週間」作品展・ワークショップ 会場のご案内

[Queen's Square YOKOHAMA]

クイーンズスクエア横浜
1階クイーンズサークル

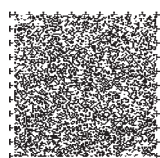
〒220-0012 横浜市内西区みなとみらい2-3

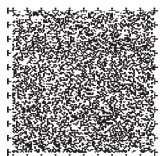
○電車でのアクセス

みなとみらい駅直結
桜木町駅下車 徒歩約8分

○車でのアクセス

首都高速「みなとみらいランプ」より約1分
地下駐車場 7:00~24:00
駐車料金/30分毎280円(税込)
平日上限/1,600円(税込)





③「障害者週間」オンラインセミナー

障害及び障害のある人に関する理解を促進するため、オンライン配信により、障害者週間の趣旨にふさわしいセミナーを各団体が開催します。

- 視聴は無料です。※通信費は自己負担となります。
- 講演内容に関するお問い合わせは各セミナーの主催団体まで直接ご連絡ください。
- 視聴に関するお問い合わせは内閣府までご連絡ください。

視聴無料



配信期間 令和3年12月3日(金)～28日(火)

主催 各団体

配信URL <https://www8.cao.go.jp/shougai/kou-kei/r03shukan/main.html#seminar>

1

一般社団法人 日本発達障害ネットワーク

TEL : 03-6721-7817
FAX : 03-6721-7818
e-mail : office@jddnet.jp

● <https://jddnet.jp/>

発達障害児等に対する支援の質は保障されているか ～障害児支援事業所における外部評価の必要性について～

障害児支援事業所については、支援の質の格差が大きいことが現在の課題となっている。本講演では、国内や海外での質の管理に関する先行事例とわが国の現状に合わせて開発した「外部評価」の試行成果を報告し、「外部評価」が支援の質向上に寄与する可能性について意見交換、議論する。

2

公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会

TEL : 03-5273-0601
FAX : 03-5273-1523
e-mail : soumu@dinf.ne.jp

● <https://www.jsrpd.jp/>

デジタル図書(マルチメディアデジ書)の広がりについて ～「GIGAスクール構想下での新配信システム」と「重度障害のある人たちの働くことへの支援」の視点から

本協会は、読みの困難がある児童生徒(約1万4千人)向けにデジタル教科書(デジ教科書)を製作提供している。GIGAスクール構想下での新配信システムも開始した。新システムのご紹介・教科書以外の児童書の提供についての現状と今後についての報告、更に重度障害のある人々によるデジ教科書製作について報告を行う。

3

公益社団法人 日本発達障害連盟

TEL : 03-5814-0391
FAX : 03-5273-1523
e-mail : info@jldd.jp

● <http://www.jldd.jp/>

「共生社会と防災」 ～支援が必要な人の防災を地域での連携を軸に考える～

毎年、全国各地で起こっている豪雨災害や、近い将来に被害が想定されている東京直下地震や南海トラフ地震に向けて、災害弱者とされる障害者への対応を、共生社会の視点を盛り込みながら、それぞれの視点での発表をおこないます。日ごろの支援体制や備えを強化する視点を互いに共有し、ネットワークが強化される事で、障害者を取り巻く環境が重視されるようになり、地域共生社会の実現に資する動きを期待します。

4

特定非営利活動法人 カラーユニバーサルデザイン機構

TEL : 03-6206-0678
e-mail : mail01@cudo.jp

● <https://www.cudo.jp/>

美術教育と多様な色覚

ヒトの色覚は生存戦略として多様なものとなり、協力し合うことで現在に至るとされている。しかし日本社会での扱いは少数色覚の人々への理解は進んでいない。色が違って見える子供達への美術教育はどのように考えれば良いのかというテーマについてD型色覚の画家、P型色覚のイラストレーターが意見を出し合って考える。

5

特定非営利活動法人 全国言友会連絡協議会

TEL : 03-6908-6333
FAX : 03-6908-6345
e-mail : info@zenngenren.org

● <https://www.zengenren.org/>

吃音があっても、豊かに生きる ～個人の視点から、社会を考える～

吃音は、「非流暢な発話」を中心とする言語障害とされている。概念としての「吃音」だけではなく、「吃音のある人」を見つめることこそが、「社会における吃音」を考える上で欠かせないと言えるだろう。今回は、当事者であり、また専門家(言語聴覚士)でもある、或る「吃音のある人」の歩みを通して、「社会における吃音」について検討したい。

障害者週間に関するお問い合わせ

内閣府政策統括官(政策調整担当)付
障害者施策担当

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1
TEL:03-5253-2111(代表)

令和3年度「障害者週間」関係事業事務局

〒157-0061 東京都世田谷区北烏山1-51-15
ACE(エース)株式会社内
TEL:03-5969-8770 FAX:03-5314-9637
Email: s-syukan@ace10.jp

